

《担当者名》一戸 真子 (非常勤講師 ichinohe-shinri@hoku-iryo-u.ac.jp)

### 【概要】

本科目は、人間を理解するために最も基本的な属性である「性差」について、生物学的性差と文化的社会的性差の違いを学習するとともに、ジェンダーの視点からみた社会における諸問題点についても学びを深めることを本講義の目的とする。人間が地球上で生きていく上で、今後はダイバーシティの考え方がより重要となっていくことについても学習するとともに、SDGsにおけるジェンダーへの取り組みや、新設されたICD-11「性の健康に関連する状態群」や、「性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する国民の理解の増進に関する法律」等、最新の動向についても理解を深められるよう学習する。

### 【学修目標】

#### 「一般目標」

生物学的性差と文化的社会的性差の違いについて説明できる。  
ジェンダーアイデンティティの多様性について説明できる。  
グローバルな視点からジェンダー問題を解釈する。  
ジェンダーに関する最新の動向を説明できる。

#### 「行動目標」

「生物学的性差（セックス）」と「社会的性差（ジェンダー）」の違いを知ることができる。  
自らのジェンダー観はどのようなものか認識できる。  
性同一性障害や性差医療などヘルスケアにおけるジェンダーについて考察できる。  
ダイバーシティ（Diversity）について理解を深めることができる。  
SDGs 目標5「ジェンダー平等」について理解を深めることができる。  
国際的なジェンダー動向について考察できる。  
個人の尊厳とジェンダーの関係について考察できる。

### 【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	ジェンダーとは	ジェンダーという概念が確立されるまでの歴史的・社会的・文化的変遷について学ぶ。	一戸 真子
2	生物学的性差と文化的社会的性差	セックスとジェンダーの違いについて、性の分化や性器の違いも含めて学ぶ。	一戸 真子
3	ジェンダーアイデンティティ	精神的・心理的自己の性別認知について、男らしさや女らしさといった社会的な性別役割も含め概説できる。わが国において令和5年に制定された「性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する国民の理解の増進に関する法律」についても学習する。	一戸 真子
4	ダイバーシティ	人間が生きていくうえで、ダイバーシティという考え方が、コミュニティや職場などあらゆる場において今後はより重要となることについて学ぶ。	一戸 真子
5	LGBTの人々に対する理解	LGBTの人々を取り巻く現状や諸環境について学ぶ。LGBTQ+についても理解を深める。	一戸 真子
6	性同一性障害（GID）と性別違和	性同一性障害における治療の特徴や性転換手術に関して学ぶ。性別違和にはどのようなことが含まれるか、最近の定義や動向について概説できる。	一戸 真子
7	SDGs 目標5：ジェンダー平等	2030年までの具体的SDGs目標5「ジェンダー平等」について学習する。	一戸 真子
8	労働とジェンダー	雇用におけるジェンダー平等やハラスメント、アンパイドワーク等、労働とジェンダーに関する現状と問題について学習する。	一戸 真子
9	家族とジェンダー	父親役割、母親役割、異性間や同性間の兄弟姉妹など家族関係におけるジェンダー問題について学ぶ。	一戸 真子
10	愛とジェンダー	愛と性差の関係について、結婚、性交渉、性ビジネスも含め学習する。	一戸 真子
11	ヘルスケアとジェンダー・ICD-11	性差医療について理解するとともに、医療・介護現場	一戸 真子

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	「性の健康に関連する状態群」	におけるジェンダーについて学習する。新設された国際疾病分類（ICD-11）についても学習する。	
12	社会生活とジェンダー	社会生活においてジェンダーがどのように関係するかについて、暴力とジェンダー、リプロダクティブ・ヘルスも含め学ぶ。	一戸 真子
13	宗教とジェンダー	道徳・倫理とジェンダーの関係や、信念や思考の重要性について、歴史の変遷も含めて概説できる。	一戸 真子
14	国際的なジェンダー動向	国際的なジェンダー動向について概説し、女性と開発の視点も含め、理解を深める。ジェンダーギャップ指数の理解と日本の現状について学習する。	一戸 真子
15	マスメディアとジェンダーノダイバシティ	ジェンダー・ステレオタイプやジェンダー・バイアス等、個人の尊重とSNS等の関係を含む社会の影響等の関係について学習する。	一戸 真子

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

レポート（40％）、試験（60％）、積極的参加状況を加味して評価する。

【教科書】

「女性学・男性学-ジェンダー論入門 第3版」、伊藤公雄他、有斐閣、2019

【参考書】

「よくわかるジェンダー・スタディーズ」、木村涼子他、ミネルヴァ書房、2013

【備考】

Google Classroom を活用して学習課題を提示する。

【学修の準備】

- ・ 予め各課題については、事前に調べて準備をしておくこと（80分）。
- ・ 授業終了後に出された課題についてレポートを作成すること（80分）。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

DP1. 心の問題にかかわる職業人として必要な幅広い教養と専門的知識を修得している。  
上記、心理科学部ディプロマ・ポリシーに適合している。